



イメージを持っていたが、降誕祭に参加しカトリックの荘厳な部分に触れたことで、それまでとは違ったイメージを抱くようになったそうだ。

今年の降誕祭も、降誕祭実行委員会の主催により一部でミサ、二部でパーティーが開催された。ミサは神言神学院大聖堂においてカルマノ南山大学長、マルクス南山学園理事長、カバラル宗教教育委員会委員長の司式のもと執り行われ、降誕祭実行委員会委員長、体育会執行委員会委員長、文化会執行委員会委員長、大学祭運営委員会委員長による感謝の祈り、管弦楽団による演奏、コール・スビラテによる合唱、参加者全員によるキャンドルサービスなどが、厳かな雰囲気の中で行われた。

一部が終わると、降誕祭実行委員会委員長の奥村さんを先頭に、神言神学院から隊列をなしてメインストリートの馬小屋に向かい、馬小屋の祝別式が行われた。祝別式は新しく建物を建てた際などに行われる儀式で、新しい馬小屋の誕生に際し、神をたたえ神の恩恵を授かるように祈りが捧げられた。

二部では、立食パーティーを中心とし



Information

◆ 2009年度学生納入金改定についてー授業料、施設設備費とも据え置きを決定ー

2009年度南山大学学生納入金について、2008年9月26日開催の南山学園理事会は、「入学に際しての宣誓」に示された授業料スライド制をもとに検討した結果、授業料・施設設備費ともに改定率を0%とし、授業料を据え置くことを決定しました。授業料改定率は、人事院勧告による国家公務員給与改定率と本学が独自に設定する教育・研究条件改善率を合算して算出しております。2009年度の場合、国家公務員給与改定率が0%となっており、教育・研究条件改善率を0%としたため、授業料改定率は0%となりました。施設設備費についても、現状で大学の施設設備取得費および維持経費増には対応可能と判断し、据え置きを決定いたしました。

○名古屋キャンパス学部学生

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

○名古屋キャンパス大学院学生

ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据

え置く。ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

○瀬戸キャンパス学部学生

名古屋キャンパス学部学生の授業料に、総合政策学部は100,000円、数理情報学部は200,000円をそれぞれ加算して算出する。授業料を総合政策学部は現行の818,000円に、数理情報学部は現行の918,000円にそれぞれ据え置く。施設設備費は名古屋キャンパス学部学生と同額とし、両学部とも現行の210,000円に据え置く。

○瀬戸キャンパス大学院学生

授業料を総合政策研究科は現行の624,000円(社会人学生は654,000円)に、数理情報研究科は現行の674,000円(社会人学生は734,000円)にそれぞれ据え置く。施設設備費は名古屋キャンパスのビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科と同額とし、両研究科とも現行の105,000円に据え置く。(総務部)

◆ 2009年4月、数理情報学部が情報理工学部にリニューアル!

2009年4月、本学瀬戸キャンパスに設置している数理情報学部は、現在の2学科(情報通信学科、情報システム数理解学科)から3学科(ソフトウェア工学科、システム創成工学科、情報システム数理解学科)に学科改組を行う。これは、より高度に分化した情報通信技術者を求める情報化社会の要請に応えるものであり、より充実したカリキュラムの設定により、学びの領域が広がることになる。またこれと合わせ、情報を中心としたものづくりを学ぶ学部として学部名称を「情報理工学部」に変更する。

◆ 平成20年度「大学院教育改革支援プログラム(文部科学省)」に採択

本学、国際地域文化研究科で申請していた「多文化社会対応企業人・教員養成プログラム—アメリカ研究の国際化を軸としたグローバル・スタディーズ教育—」が大学院教育改革支援プログラム(文部科学省)に選定された。

◆ 平成20年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(研究拠点を形成する研究)」(文部科学省)に採択

本学、言語学研究センターで申請していた「言語比較に基づく統語理論の国際共同研究」が私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(研究拠点を形成する研究)(文部科学省)に選定された。

◆ 学内会社説明会開催〈予告〉

本学では、上場企業や中部の優良企業などを招き学内会社説明会を開催している。今年度は名古屋キャンパスにおいて、2009年1月6日・7日、2月2日・3日、2月17日・18日の6日間、瀬戸キャンパスでは、主に理系が採用対象となる企業を中心に2月2日・3日の2日間開催する。いずれも本学の学生のみを対象としたものであり、昨年度は名古屋キャンパス252社、瀬戸キャンパス137社の企業採用担当者により、積極的な会社PRが行われた。これから就職活動に入る学生の皆さんには、ぜひこの機会を活用していただきたい。

◆ 保護者のためのオープンキャンパス〈予告〉

2009年3月14日、高校生の保護者の方を対象とした「保護者のためのオープンキャンパス」を開催します。大学を取り巻く環境が急激に変化しつつある昨今、本学の教育への取り組みを、模擬授業などを通して体感し、進路決定の一助としていただければと思います。詳細は2月以降に本学Webページにてお知らせいたします。



南山大学

発行 学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone : 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp
http://www.nanzan-u.ac.jp/

2008.12.19

寄付者ご芳名

「南山大学教育・研究支援」へのご協力に感謝いたします。

三機工業株式会社中部支社 様
南山大学同窓会 様
石井 義秋 様
渡辺 平 様
長倉 禮子 様
中村 徹 様
他1名様

南山大学広報誌

NANZAN bulletin vol.167 2008.12.19



〈入試広報学生スタッフ〉
入試広報活動に協力してくれている在学生スタッフのこと。イベントや相談会・大学見学において、キャンパス内の案内、広報物の作成、ブログの掲載などを通して、学生の視点から本学の魅力を紹介している。受験生が近い将来の自分を感ずることが出来るため、その活動の効果は大きい。

NANZAN UNIVERSITY

Feature Article

特集 南山大学のクリスマス (生誕の家と降誕祭)

カトリック修道会「神言会」を設立母体にもつ南山大学では、毎年クリスマスの時期が近づくとキャンパス内に生誕の家(馬小屋)が建つとともに、12月には学生の有志団体主催の降誕祭が開催される。街中のクリスマスの雰囲気とは違った南山大学の伝統的なクリスマスについて紹介しよう。

生誕の家(馬小屋)

クリスマスの時期が近づくと名古屋、瀬戸両キャンパスに質素なひとつの小屋(馬小屋)が建つ。これはイエス・キリストの生誕の家であり、欧米ではクリスマスを祝う飾りとして一般的に知られているものだ。この馬小屋を飾る歴史はとて古く、聖書の「あなたがたは、布に包まれて飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるだろう」というイエス・キリスト誕生の一節に由来する。

名古屋キャンパスではメインストリート沿いに毎年、馬小屋が飾られているが、今年度装いも新たに建て替えられることになった。新しい馬小屋の大きさはこれまでの約1.5倍、中に飾られる人形は海外からの輸入品で今後3年をかけてすべてが揃えられる予定だ。これまで見たことがなかったという人も、ぜひ新しい馬小屋の前で足を止め、クリスマスの歴史の一端に触れてみてはいかがだろうか。



降誕祭

さて、生誕の家(馬小屋)と合わせて南山大学のクリスマスの風物詩となっているのが降誕祭である。

この降誕祭は、学生の有志団体「降誕祭実行委員会」のメンバーが中心となって進めるクリスマスイベントであり、企画から運営までのすべてを学生が行う。

そもそも降誕祭が始まったのは今から19年前、学生たちの声がかきつけた。当時本学では小グループの学生によるクリスマス会だけが開催されていた。このため学生たちの間で、学生・教職員が全学的に参加できるクリスマス会を開催したいという声ができ、降誕祭が企画された。今から考えるとカトリック大学である南山大学においては必然的なことだったのかもしれない。しかし、この伝統行事がこれまで継続して実施されているのには、カトリック大学というよりもむしろ、学生たちが自分たちの手で作り上げていることにその要因があるだろう。現に今年の学生スタッフ55名の中にはカトリック信者は1人もいない。全員南山大学に入学して初めて降誕祭に出会い実行委員として活動している。

今年度実行委員長を務めた奥村聡さん(法学部法律学科3年)も2年前に初めて降誕祭に参加し、あらためてカトリック大学の学生であることを意識したという。それまでクリスマスと言えば、クリスマスツリーにサンタクロースという



Special events

9.26

南山大学附属小学校オリエンテーリング

9月26日、南山大学附属小学校1年生の初めての宿泊学習において、オリエンテーリングが名古屋キャンパスで行われ、普段は目にしない児童の姿が見られた。

このオリエンテーリングは、大学を身近に感じ自然を大切にしようとする気持ちを育むことと、体験学習を通じ自ら問題を発見し解決していくといった自立的・能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的として行われたもので、児童たちはグリーンエリア、体育センター、ワールドプラザといった大学施設を利用し、さまざまな課題に楽しく取り組んだ。大学構内での生き物観察、自分たちで集めた落ち葉や枯れ枝、木の実を使った自分の顔作りといった体験学習をはじめ、大学生へのインタビュー、施設内での使用言語を外国語のみに限定したワールドプラザにおける英語でのインタビューなど、教室の授業では味わえない体験や交流が図られた。

南山大学附属小学校では、2年生が11月に瀬戸キャンパスで同様の宿泊学習を行うなど、積極的に大学と交流を図っている。



9.27

第36回「父母の集い」

9月27日、名古屋、瀬戸両キャンパスにおいて第36回「父母の集い」が開催され、名古屋キャンパス(NNC)約710名、瀬戸キャンパス(NSC)約250名の保護者を迎えた。

両キャンパスの全体会で挨拶に立ったカルマン学長は、「大学と家庭という2つの教育現場の密接な連携が重要です。」と父母の集い開催の意義を強調し、より一層充実を図りたいとの意向が示された。続いて行われた阿部博後援会理事長(NNC)、戸田吉紀副理事長(NSC)の挨拶に続き、本学担当者より学生生活、学生の海外留学、2008年度の就職について説明が行われ、学生の課外活動や就職活動の話などに熱心に耳を傾ける保護者の姿が見られた。

全体会に引き続き、学科懇談会、教員との個別面談、施設見学などが行われたほか、名古屋キャンパスでは、夫婦デュオ、チェリッシュの松崎好孝、悦子ご夫妻による「我が家族」と題した講演会が開催され、ご家族4人でされたアメリカ旅行を中心に家族のつながりについてご講演いただいた。



10.11

第42回 野外宗教劇「受難」

10月11日、今年で42回目を迎える野外宗教劇「受難」が開催された。昨年は南山学園創立75周年記念行事として愛知県芸術劇場大ホールを会場に実施されたが、今年は例年通り名古屋キャンパスのバッセスクエアを舞台に開催された。

宗教劇「受難」は、45年前から続く本学を代表する伝統行事で、キリストのエルサレム入城から十字架の死を経た復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生たちが演じる野外劇である。出演はもちろんのこと、脚本、衣装、メイク、演出その他宗教劇に関わるすべてのことを学生たち自身が行っており、基本的に同じ筋を辿るストーリーにも毎年新たな解釈が加えられ、見る者に楽しみを与えている。

今年はいよいよの強風と寒さもあり、演じる者にとっては辛い舞台となったが、それでも約250名の観客を集め、感動とともに無事終えることができた。今後先輩たちの築き上げてきた伝統を引き継ぎ、さらに発展させる形で続けていくことだろう。



10.12

インドネシア語スピーチコンテスト

10月12日、名古屋キャンパスにおいて、中部地区初となるインドネシア語スピーチコンテストが開催された。

このコンテストは、日国交樹立50周年を機会に本学外国語学部が主催したもので、名古屋、三重といった近隣のみならず東京、大阪など遠方からの応募もあり、計26名が日頃の勉強の成果を発表した。また今回のコンテストでは、スピーチとは別に、名古屋市在住の市民団体の皆さんによるバリの伝統舞踊やインドネシア料理の振る舞いなど、インドネシア文化に触れる機会も設けられ、来場者は五感すべてにおいてインドネシアの魅力を感じるようになった。

本学では、外国語学部アジア学科においてインドネシア語を履修科目に置いているほか、アジア・太平洋研究センターにおいてインドネシアを含む北東・東南アジアとオーストラリアを中心とした太平洋地域における研究を積極的に進めており、今後も日伊両国の親睦と相互理解を目的としてこのスピーチコンテストを開催する予定である。



9.17

2008年度総合政策学部秋学期入学式

9月17日、2008年度総合政策学部秋学期入学式が瀬戸キャンパスにおいて挙行され、中国、台湾、メキシコ、タイ、ミャンマーから外国人留学生16名を迎えた。



10.18

南山大学・豊田工業大学連携講演会

10月18日、連携協定を締結している豊田工業大学と本学が主催する第3回連携講演会が行われた。今回は、「高度情報化時代の課題～くらしを支えるテクノロジー～」をテーマに、豊田工業大学の鈴木孝雄副学長と本学の野呂昌満副学長が講演を行った。



10.1

南山留学フェア

10月1日、留学を希望する日本人学生を対象に南山留学フェアが開催された。交流協定締結校39大学から本学外国人留学生別科(CJS)に来ている留学生と、留学から帰ってきた日本人学生が各ブースに分かれ、協定校の様子や町の雰囲気を紹介した。



10.25-26

第8回 聖南祭

10月25日・26日、瀬戸キャンパスにおいて「LOVE(Local, Organization, Visionary, Environment)」をテーマにした第8回聖南祭が開催された。



10.13

1日体験入学会

10月13日、名古屋、瀬戸両キャンパスにおいて1日体験入学会が開催された。受験生にとっては本学の授業や学生生活を体験できる貴重な機会ということもあり、両キャンパスには昨年を上回る614名の来学者があった。



10.31-11.3

NANZAN FESTIVAL 2008

10月31日～11月3日、名古屋キャンパスにおいて、繋がり大切にしようという思いのもと、「Hands」をテーマにNANZAN FESTIVAL 2008が開催された。



南山のDNA DNA DNA DNA DNA

どんな経験も人生にはプラス

近藤 理恵 外国語学部英米科(現英米学科) 1991年卒業

大学時代のアルバイトをきっかけに、現在はタイムキーパーとしてテレビ局のニュース番組を担当し、CUEシートの作成、ニュース原稿の下読み作業など報道番組の幅広い業務を担当している。



各方面で活躍する本学卒業生をリレー形式で紹介していくプレティン版「南山のDNA」シリーズ、第3回となる今回は、テレビ局にタイムキーパーとしてお勤めの近藤理恵さんです。

人生においての重大な出会いや出来事は、

いつどこに転がっているかわかりません。そう思うと、私の中では大学時代のクラブ活動はすごく大きなものでした。小さい頃から音楽好きだった私は、大学では新しい楽器に挑戦しようとしてギターアンサンブルに入部しました。しかし早々とギターに挫折して指揮者に転向。ギタアン部員なのにギターを弾かないその役職は一見華やかに見えますが、演奏会用の曲を、メロディ、コード、ハーモニーに分けて総譜(スコア)を作る裏方作業。表舞台上で演奏するみんなを支える縁の下の力持ち、そんな気持ちでやっていました。そして今、そのスコア作りは、私が仕事としているテレビ番組のCUEシート作りにとても役立っているのです。

CUEシートとは、オンエア中の映像、音声、テロップ、BGM等それぞれの状態を示した番組の進行表で、言ってみればスコアのようなもの。タイムキーパーの主な仕事は、時計を見ながら番組を時間内に終わらせることで

すが、CUEシートはそのおおもとなるものです。番組の指揮者はディレクターさんですが、各スタッフの動きを俯瞰しながら全体を構成していく作業は、あの頃みんな曲を作り上げていったのと似ています。

そもそもこの職に就いたきっかけは、クラブの先輩から引き継いだ報道部のアルバイト。元々テレビ局の仕事には憧れていたもので、これもラッキーな巡り合わせでした。そして学生時代から慣れ親しんだ職場に今もいるわけですが、周りの様子は年月とともに変わり、毎日必死なヒヨッコだった私も今ではすっかりベテランのお母さんの存在になりました。後から入ってくるヒヨッコたちを陰で支える余裕が出て来たって感じでしょうか。気持ちは学生時代と変わってないんですけどね(苦笑)。ギタアンに出会わなかったら、今の私はなかったことでしょう。

学生の皆さん、ちょっとした出会いも後々大化けすることがあるので、一つひとつの出会いを大事にしてくださいね。



Campus Topics

AED設置・救急救命講習会 外国人留学生別科(CJS)防災訓練



南山大学には、毎日ほぼ1万人近くの学生、教職員が集う。そこで不測の事態に備えるため、9月にAED(自動体外式除細動器)を名古屋、瀬戸両キャンパスに合わせて32台導入した。これによりすでに設置していた5台を含めて計37台(おおむね1棟に1台)の設置が完了したことになる。AEDは人口呼吸および心臓マッサージとともに、救急車到着までの数分間に重要な役割を果たす機器であるが、2004年7月より一般市民による使用が認められ、公共の施設を中心に設置が進められている。

また、このAEDの設置に合わせ、名古屋、瀬戸両キャンパスでは学生、教職員を対象とした救急救命講習会が開催された。11月27日・28日に名古屋キャンパスの学生(希望者のみ)を対象として実施された講習会では、

AEDの使用を含む心肺蘇生法、止血法などについて実践的な講義が行われ、初めて扱う機器にとまどいながらも真剣に取り組む学生の姿が見られた。

このほか9月17日には外国人留学生別科生を対象に防災訓練が実施され、交流会館における避難訓練に続き、起震車による震度7の地震体験、消火器を使った初期消火訓練、消化栓からの放水訓練などが行われた。震度7を想定して行われた起震車体験では、「地震だ!」という声とともに机の下にもぐるグループが出るなど本番さながらに訓練が行われ、留学生のすばやい行動に歓声や拍手が起こる一幕もあった。訓練に参加した留学生にとっては貴重な体験になったことだろう。



International Friendship

外国人留学生別科(CJS)IJ400「覚王山プロジェクトワーク」

※IJ400-外国人留学生別科必修科目[Intensive Japanese(集中日本語)]レベル400のこと。秋学期にはIJ200からIJ600が開講されており、IJ400は集中日本語中級に当たる。

11月6日、外国人留学生別科(CJS)の留学生62名が名古屋市千種区の日泰寺周辺の商店街(通称、覚王山商店街)において、覚王山プロジェクトワークを行った。

この活動は、留学生が2~3名のグループとなり事前に選んだ商店へ日本語でのインタビューを行うもので、外国人留学生別科(IJ400)の日本語学習の一環として5年ほど前から実施されている。授業で学んだ日本語を友達同士で使うのと違い、実際の社会生活の中で実践的に使用できることから、留学生にとっては大きな刺激となり、その後の学習意欲の向上にもつながっている。

覚王山商店街は、豊店、石材店、日本茶店、駄菓子店といった日本ならではの伝統的なお店と輸入雑貨店、チーズ&はちみつカフェなどといった新しいお店が入り混じった日本人にもとても興味深い商店街だが、留学生たちはそれぞれのグループで興味のあるお店を選び、事前に質問事項を考え、インタビューの練習をするなどして本番に臨んだ。

覚王山商店街の皆様には、毎年温かく留学生を迎えていただけており、今回も日本語でのインタビュー以外に、針と糸を使った量産級の実演や養蜂の現場を見学したグループ、梅こぶ茶をご馳走になるグループが出てくるなど、文化交流する場面もたくさん見られた。

敬語を駆使して質問をする留学生と熱心に留学生の話の聞き説明をしてくださる商店街の皆様との交流は、国籍も年齢も超えた心の交流になったことだろう。



行事	保護者のためのオープンキャンパス	3月14日(土)	場所:名古屋キャンパス
	卒業式典	3月20日(金祝)	場所:日本ガイシホール
	学内会社説明会	1期/1月6日(火)~7日(水) 2期/2月2日(月)~3日(火) 3期/2月17日(火)~18日(水)	場所:名古屋キャンパス
	学内会社説明会(理系)	2月2日(月)~3日(火)	場所:瀬戸キャンパス

自動車はコンピュータで走る

青山 幹雄

あおやまみきお
数理情報学部情報通信学科教授

専攻分野は「ソフトウェア工学」、長期研究テーマは「ソフトウェア工学(ネットワークソフトウェア、組み込みソフトウェア)、短期研究テーマは「サービス指向ソフトウェア工学」、主な著書は「航空とIT技術」(共著、共立出版、2001年)など、担当科目は「ソフトウェア工学」「ソフトウェア開発技術」など。



自動車には50個以上、高級車ともなると100個ものコンピュータが搭載されています。近年の温暖化ガス削減や燃費の向上、安全性の向上には、コンピュータが主要な役割を担ってきました。コンピュータによって少量のガソリンで効率的にエンジンを燃やす精密な制御が可能となり、さらにエンジンの回転を車輪に伝えるあらゆる機構をコンピュータで制御するようになりました。また性能と燃費の向上という相反する要求も実現しています。そのため自動車に搭載されるコンピュータが増えてきたのです。

今や自動車は人が移動する乗り物であると共に高度な情報システムともなっています。そのため、コンピュータを動かすソフトウェアの開発も急激に増えています。私の専門はソフトウェア工学と呼ばれるソフトウェアを開発する技術ですが、その中でも私自身が自動車好きであり、また自動車が好きで学生もいることから、自動車のソフトウェア開発技術に取り組んでいます。また、地域の自動車会社とも共同研究を進めています。例えば自動車の中の多数のコンピュータを連携して正しく動作をさせる技術に取り組んでいます。さらに、その動作を確認するため自



英語で異文化コミュニケーションについて議論する

花木 亨

はなき・とおる
外国語学部英米学科講師

専攻分野は「コミュニケーション論」、長期研究テーマは「異文化コミュニケーション研究、文化研究」、短期研究テーマは「異文化コミュニケーション-研究における実践」、担当科目は「異文化コミュニケーション論」「コミュニケーション研究の基礎」など。



私の専門は異文化コミュニケーション研究ですが、授業としてはコミュニケーションに関する専門科目に加えて英語科目も担当しています。今回はこれらの二つを融合したような科目「Special Topics in English」をご紹介します。

「Special Topics in English」は英米学科3・4年次生対象の選択科目で、担当教員の専門分野に関する内容をすべて英語で学ぶことを目指します。私の場合は異文化コミュニケーションが専門ですので、文化やコミュニケーションを取り巻く諸々の問題を取り上げます。受講者数が最大25名と



比較的少数であることから、発表や議論を中心とした対話型の授業を展開しています。学生たちは、偏見、差別、歴史、アイデンティティ、言語、権力、メディアなどのテーマごとに、異文化コミュニケーションに関する英語文献を毎週読んから授業に臨みます。各授業の始めに、2名から3名の学生がその週に読んできた文献の内容を要約し、それについての自分の考えを述べると同時に、他の学生たちに向けていくつかの問いを投げかけます。他の学生たちは、これらの問いに対する自分の考えをまとめ、4名ほどの小グループに分かれて議論します。こうして浮かび上がってきた論点について、今度はクラス全体で議論します。これらの作業すべてを英語のみで行います。

私は英米学科の学生たちには、自分たちを取り巻く様々な社会問題について日本語と英語を使って理解し、それについて自分の頭で考え、その考えを日本語と英語で不自由なく表現できるようにしてほしいと考えています。この授業がそのための一助となることを願います。